

重点課題WG（第2回）における主なご意見（事務局作成メモ）

- 研究開発課題の検討にあたっては、社会的課題とそれぞれの技術がどう関わるのか、リンクを如何に明確に記述できるかがポイントではないか。
- 省エネ技術や交通網の制御など、課題によっては、ICT以外の技術が大きな効力を持つものもある中、ICTの寄与度をどこまで示せるかが重要ではないか。
- 社会的課題の整理の中で、（電話網→インターネット→クラウドといった）マクロな視点での技術トレンドの変化も、うまく盛り込むべきではないか。
- ICTの技術開発の進展がICTそのものを無意識化していく中で、ICTの重要性を如何に示していけるかがポイントではないか
- 社会的課題とのリンク付けが必ずしも明確に説明できないような基礎技術も重要ではないか。それを誰がやり、予算規模としてどのくらいが適当なのか、というような観点を付け足していく必要があるのではないか。
- 欧米の支援制度との大きな違いは、1つの案件の予算規模が大きく、ベンチャーや大学が入り、様々なフェーズが混在したプログラムとして成り立っているという点ではないか。また、研究開発と平行して、ベンチャーキャピタルなどへの助成を行っているほか、国の予算の一定比率を中小企業へ支出する制度（SBIR）もある。このような他国との比較が、産業育成も含めた取り組みのあり方として参考になるのではないか。
- 実用化への最後のハードルである実証段階において、実証実験やテストベッドなど、国がどのような役割を担うべきか。